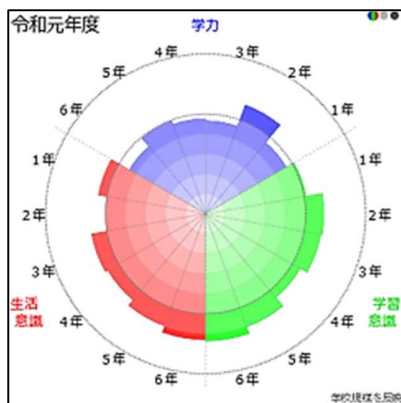
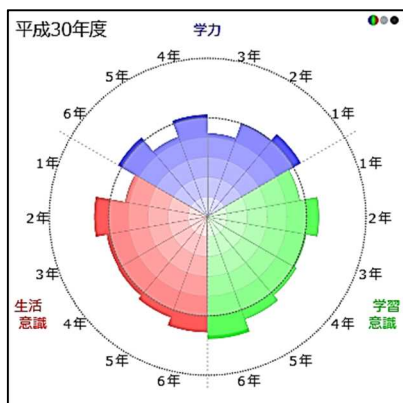
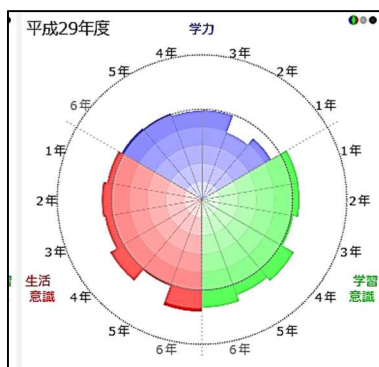
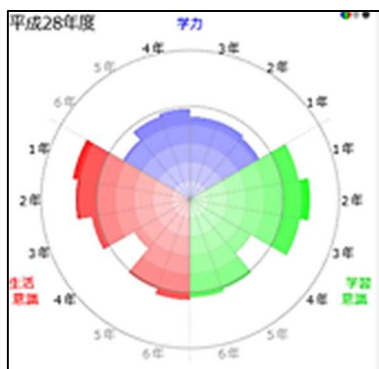


# 令和元年度 横浜市学力・学習状況調査等からの実態把握と本年度の取組

## 1 学力の概要と要因の分析

学習意識、生活意識については、経年変化を見ると、全体的に上がっていて、ほぼ平均を上回っていることがわかる。しかし、学習意識は学年が上がるにつれてとても高い傾向にある本校の児童であるが、学力の数値については低い。

子どもたちの学習意識は高いけれど学力の数値が低い。これまで課題としてあった、算数、理科に対する学習意欲や学習意識に関しては改善がみられる。だが、学力については特に算数の学力については深刻である。算数と理科の学力の状況においては市の平均よりも軒並低くなっていることがここ数年続いているので改善が急務である。全体を通して算数・理科の学力が市の平均に比べて低く、課題が大きい。学習についていけない児童に対していかに個別に支援を行っていくのが課題となっている。学習・生活意識調査からわかるように、学校が大好きで、学習への意欲が高い本校の児童の学力が低い実態を真摯に受け止め、この事実に向き合っていく必要がある。その一つが、教師の算数・理科の授業改善と基礎学力の強化である。学習の基礎基本となる力を徹底的に繰り返し行うことで、子どもたち一人ひとりが達成感を感じ、学習に対してプラスの作用が期待できると考える。今年は朝の時間の1部をその時間に充てる。

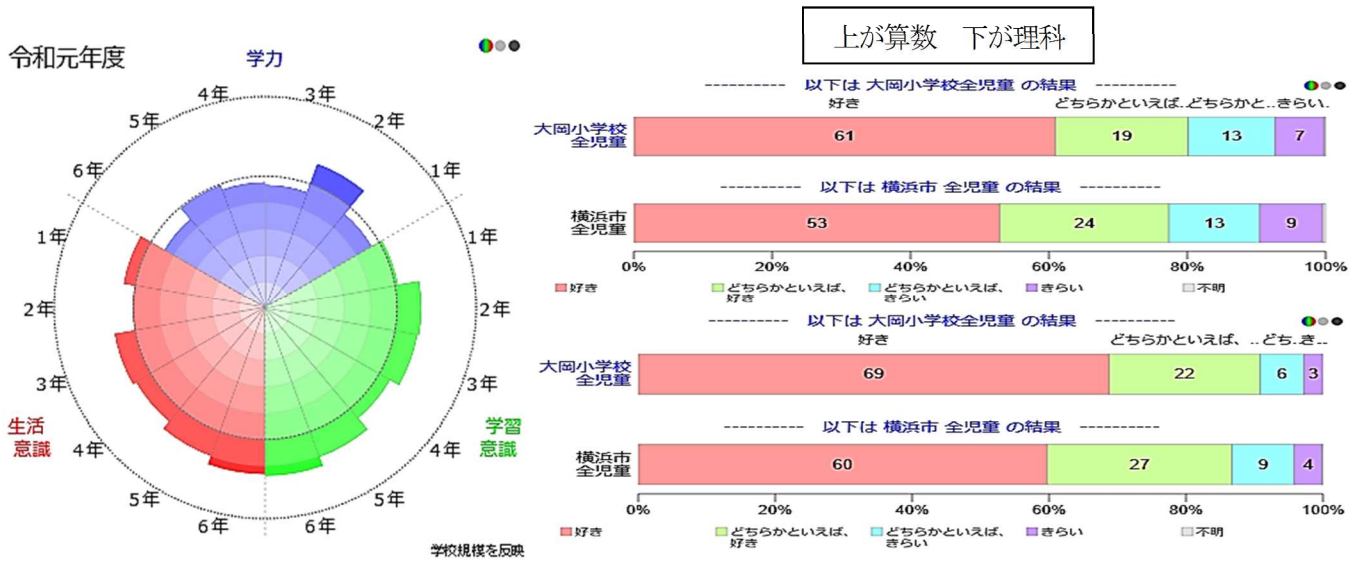


## 2 教科学習の状況

○国語科：「話すこと」についてはどの学年でもよい意味で平行線であるが、「書くこと」についてはどの学年でもかなり改善していく必要がある。言語に関する知識・理解・技能に課題がある。言語力が劣っていることが書く力へ影響している。特に漢字については早急に手立てを打つ必要がある。

○算数科：計算や図形の作図等や技能面を中心に課題が全般にわたっている。授業改善と学力の向上が求められる。図形の作図についてはICT機器を活用して1人1人にきめ細かな指導をすることで正しい作図の手順と方法を身に付ける必要がある。計算についても継続的な取り組みが技能の定着と考え朝の時間等を工夫して実践していく必要がある。

- 社会科：思考・判断に難がある。資料を関連付けて考えることを苦手としている傾向が見られる。社会の授業に対する意識が高いにも関わらず、学力が平均を下回っている現状としては、社会的事象に対する知識に欠ける部分があるが、資料を正しく活用する力は伸びている。社会科の意識調査では、すべての質問に対して平均を大きく上回っている。しかし、どの程度授業が分かるかとの質問はやや平均を下回る結果から、授業改善が必要であると考えられる。
- 理科：すべての学年において市の平均をやや下回っている。特に理科の思考、表現においては課題がある。理科の学習の仕方が身についていないことが考えられるので、ノートの作り方や学び方を共有していく必要がある。また、テレビや動画が中心となり、実際に実験を行っていないことも考えられる。基礎的な実験の手順や、予想、実験方法、結果・考察の書き方等もどの学年でも、もう一度指導していく必要がある。



### 3 経年変化の状況と要因の分析 (学習・生活意識調査も含めて分析)

平成28年度から令和元年度の変化を見ると、どの学年にも共通する課題や特長があることがわかる。令和元年度は、学力がここ4年で初めて低下する結果になった。特に国語の学力に関しては、これまで上昇してきたものが令和元年度で、全体が市平均を下回る結果になった。学習意識・生活意識共に上昇していることについては、日々の授業改善が数値として表れてきていると考える。学校だけではなく家庭でも協力してもらい学校でも学習、家庭での復習が少しずつ定着しつつあることがわかる。

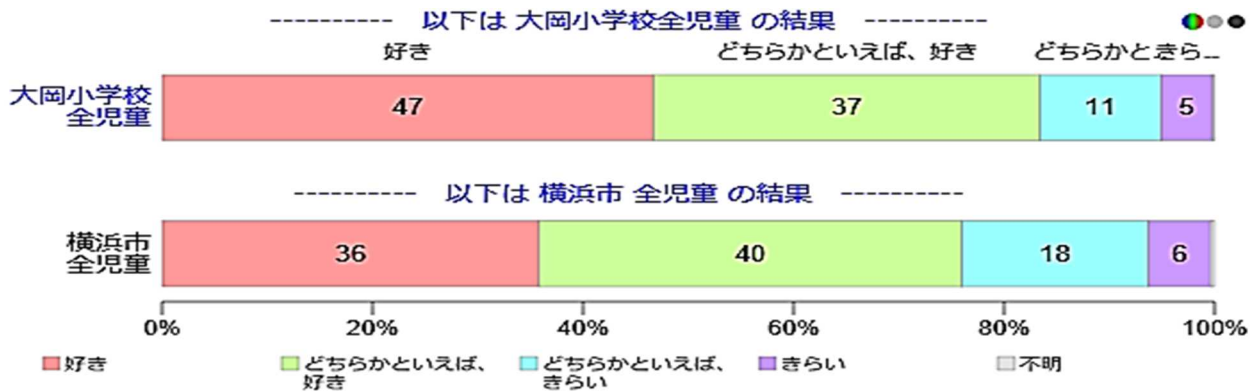
学習意識が高い本校の児童がなぜ、学力につながらないかを考えていくと、C層の児童への手立てや指導をもう一度考えて指導していく必要がある。また、学習意識が高い子どもたちが満足いく授業になっているのかももう一度見直していく必要がある。B層の児童がわかる授業も大切であるが、A層、C層も満足する授業を計画して考え実践していくことが大切であると考えられる。令和元年度の結果を真摯に受け止めデータを各学年で分析して、学力が軒並み低下しているこの点は今後留意し、指導の必要が考えられる。

「勉強は好き・まあまあ好き」と答えている児童がどの教科も8割以上いるので、全体として高い学習意欲を、学力に結び付けていくよう、児童の実態を見極めて学ぶことの楽しい、また学力の強化につながるようなカリキュラムをマネジメントして、指導内容を工夫・精選していくことが必要である。

そのためには、基礎的な学力の強化と決められた学習の習慣が必要である。読み書きの強化をもう一度職員で共通理解して基礎的な計算力・漢字の書き取り、語彙の強化から書く力の向上を図るとともに、身に付いた知識が定着する活動をどう展開させていくのか、考えていく必要がある。

さらに、4年間にわたる大きな時間軸でとらえると、学習への意欲、生活意識共に、年度にはよるがほぼ伸びていることが分かる。これらについても、カリキュラム全体を通して子どもを育てていこうという共通意識が結果として出てきていると考えられる。しかし、「算数」「理科」に関しては、意識の向上が見られるのにもかかわらず学力が伴わないので、少人数の指導や個別指導の一層、一人一実験や学習の仕方・学びからまとめ方をしっかり教え、授業の充実が必要と考えられる。そして、学習状況調査の結果を真摯に受け止め教師がデータ分析して、目の前にいる子どもにどのような指導が必要か、何が足りないのかを分析して教科指導の一層の努力と改善

が必要であると考える。



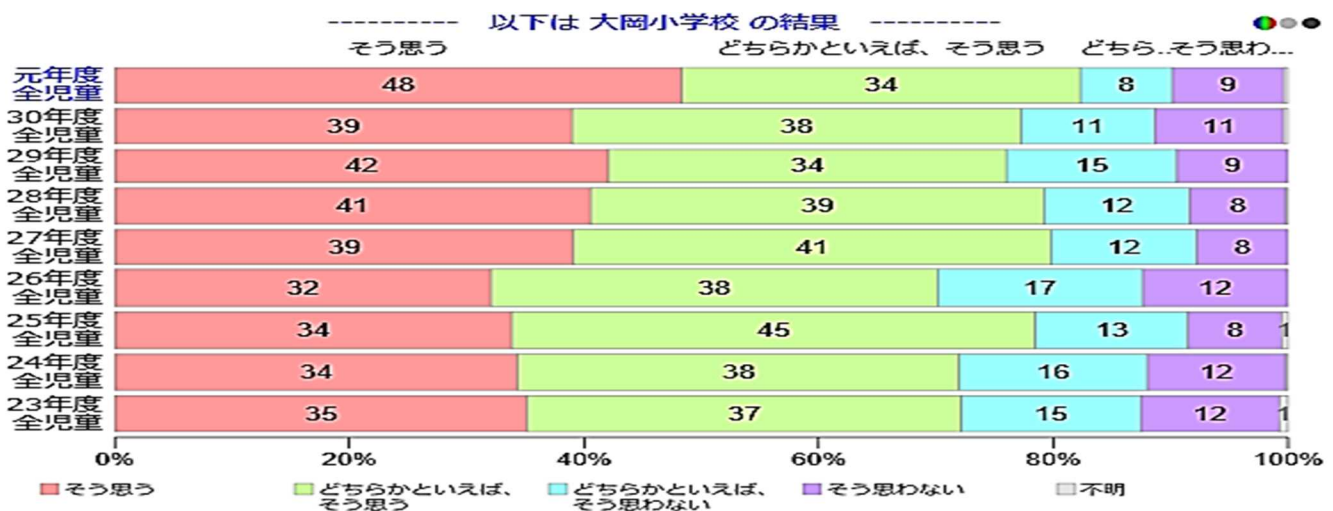
#### 4 経年変化の状況と要因の分析（学習・生活意識調査も含めて分析）

また、本校の特徴的な実態として自尊感情が低いことがここ数年続いている。平成30年度の自己意識について分析していくと、「自分のことが好きだと思いますか」「自分にはよいところがあると思いますか」という設問の値が低いことがわかる。学習が好き、発表が楽しい、学習意識が高い本校の子どもたちであるのになぜそのような結果になるのか分析していくと、(下の表から) 自尊感情が低いことがうかがえる。ところが、それ以外の項目は高く、他者とのかわりについての設問の値は高い傾向が見られる。このことから、望ましい他者とのかわりができる子どもが多いことがデータから読み取れる。

令和元年度のデータを見ていくと、ここ数年の本校児童の弱点であった自尊感情が大幅に上昇していることがわかる。ここ4年間のデータを分析していくと、「自分にはよいところがあると思いますか」という設問が4年ぶりに平均を上回り、また、「ものごとを最後までやりとげてうれしかったことはありますか」という設問も平成30年度は平均を下回っていたが、令和元年度では平均を上回った。

学習の場が、学校だけではなく、地域へと開放されることで、地域の方や学習で関わる専門家などに授業やそれ以外で褒めていただいたり評価していただいたりしたことが数値に表れていると分析する。学校の職員だけではなくより多くの目で子どもたちを育てていこうという取り組みが効果を発揮していると考えられる。学校でも、担任が1人の子どもに関わるのではなく多くの目で子どもを見守り指導していくことをより意識して経過を観察していきたい。

自分にはよいところがあると思いますか？



## 5 令和2年度 学年・教科等としての具体的取組

### 1 学年

- 書く活動を充実させるために、国語・算数・生活科等で自分なりの考えをもって話したり、友達の話の聞いたりする活動を大切にす  
る。
- 算数の授業で学んだことを楽しく生活の中  
で生かすことができるようにするために、具  
体物操作を行って数量に関わりをもてるよ  
うにする。
- 全員が安心して授業に臨めるよう、視覚的支  
援を積極的に取り入れる。

### 2 学年

- どの学習場面においても、(場に合う) 質問の  
時間を設定したり、課題の概要(問題場面の  
大体の理解)を促したりし、意欲をもって学  
習に取り組めるようにする。
- 国語では、辞書などを活用し漢字の定着や語  
彙を増やし、書く場面で自分の考えを説明す  
るときに使える言葉や文を豊かにする。
- 算数では、長さ・かさ・数直線・大小比較な  
どの知識技能を生活の場面で応用できるよ  
うな授業展開に取り組む。

### 3 学年

- 国語科では、大事なことを落とさないように  
しながら聞く能力をのばすため、話の目的を  
意識する場面を多く作る。また、書いたもの  
を読みあい、自分の考えを順序に気を付け表  
現し伝える活動を充実させる。
- 算数では、基礎基本の学力は高いものの、グ  
ラフの読み取りや数直線上の数字の認識、三  
角形の構成要素の着目が市の平均を下回る。  
細かな作業や情報の読み取りに際して、丁寧  
に課題に取り組む指導を行う。

### 4 学年

- 国語では、相手や目的を明確にして話した  
り、聞いたり、書いたりする活動を単元に位  
置付ける。また、辞書を積極的に活用させ、  
児童が言葉に触れる機会を増やしていく。
- 算数では、朝の学習時間や授業冒頭に既習事  
項を中心に基礎的・基本的な知識・技能を身  
につける帯活動を設定する。
- 理科と社会では、単元の終わりに自分で学び  
を整理する時間を設けることで知識等の定  
着を図る。また、実験方法を考えたり確認し  
たりする学習過程を丁寧に行う。

### 5 学年

- 国語や算数では、学習意識と学力がともに低い  
傾向にある。朝の時間等で個の課題にスマール  
ステップで取り組み、達成感を味わう機会をつ  
くことで、学習意識を高めるとともに、基礎  
基本となる計算や漢字などの知識・技能を确实  
に身に付けていく。
- 理科では、学習意識は高いものの、知識の不足  
で学力が市の平均を下回っている。実験したこ  
とを知識へと結び付けられるよう、結果・考察  
の書き方を確認し、書く力を伸ばしていく。

### 6 学年

- 話したり聞いたりする場面では、音声情報から  
重要な情報を自ら整理する活動を行う。
- 説明的文章から目的に応じて必要な情報を  
探し出し、自分の考えを再構成する学習活動  
を行う。その過程で表現方法や語彙の種類、  
使い方を指導していく。またグラフやモデル  
図など他教科の力の活用場面を位置付ける。
- 算数において形式的操作ではなく、数のまと  
まりや十進法の仕組み、数量関係をもとに、  
表や数直線等に表現し説明する活動を行う。

### 個別支援学級

- 個別の教育支援計画、個別の指導計画に基づき、話し言葉、表情、仕草、書き言葉等、発達段階に応じた適  
切なコミュニケーション手段を学ぶ場を、学校生活のあらゆる場面で意識的に設ける。
- 友達同士のやり取りを重視し、質問や感想、アドバイスなどの交流場面を位置づける。
- 日記を書く時間と発表する時間をカリキュラムに位置づけ、表現(書く・話す・聞く)の充実を図る。